



南会津 のうりんニュース

平成18年7月(第98号)

今月の写真：「恵みの森」(只見町)

会津地方では、昨年実施された「あいづディスティネーションキャンペーン」に引き続き、今年も7月1日から「この夏も会津へ2006キャンペーン」が実施されます。これを機に、会津地方を堪能してみたいはいかがですか？

写真は、広大なブナの原生林が残る只見町の恵みの森です。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・「食と農の交流フェアin農業総合センター」が開催される！！
 - ・「ファミリー緑の教室」が開催される！
 - ・「植樹祭」が開催されました！ ほか
- この人を知りたい
星勇さん 檜枝岐村
- 南会津の名水の話
水引の清水 (南会津町館岩総合支所振興課)
- 今月のコラム
♪世の中変わっているんだよ～

平成18年7月12日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

「食と農の交流フェアin農業総合センター」が開催される!!

去る6月10日～14日に、平成18年4月に開所した農業総合センター(郡山市)において「食と農の交流フェアin農業総合センター」(以下「交流フェア」という。)が開催されました。



県知事に「つと豆腐」の説明をする荒川さん

南会津地方では、伝統料理展示・試食コーナーにおいて、代表的な野菜(アスパラガス(グリーン・紫)、山菜(フキ、ミズナ、ワラビ))及び伝統料理(しんごろう、つゆじ、つと豆腐)などについて、来場者の方々に実物やパネルなどを用いながら「NPO法人はいつと」の荒川さんとともに紹介しました。

また、物販コーナーでは、「JA会津みなみ下郷直売所藤の郷よらっしゅ」がしんごろうや南郷トマトジュース、「(財)下郷町観光公社」がイワナ・ニジマスの塩焼きや生そばなどをそれぞれ販売し、南会津地方の特徴的な農林水産物や加工品をPRしました。

来場者からは特に、「紫アスパラガス」や「しんごろう」についての質問が多数あるなど、展示品や販売品



物販コーナー

に大変興味を持たれていました。この交流フェアの開催により、来場者の方々には、地域の農業や食文化、健全な食生活等に対する理解を深め

ていただけたとともに、センターの役割・機能が理解していただけたものと思います。

(地域農林企画室、農業振興部、農業普及部、農村整備部、森林林業部)

「ファミリー緑の教室」が開催される！

去る6月24日に「第20回ファミリー緑の教室」が、南会津町青柳の「久川生活環境保全林」(旧伊南村久川城址)において、南会津地方緑化推進委員会及び南会津町緑化推進委員会の主催により開催されました。

当日は梅雨の合間の好天に恵まれ、南会津郡の各町村から50名を超える親子の参加があり、緑の芝生の上で開校式が行われた後、午前中は「もりの案内人」による自然観察会が、午後からは南会津農林事務所職員の指導のもとキノコ植菌体験が実施されました。

午前中の自然観察会では、5つの班に分かれて久川城址内の森を散策し、植物、昆虫、野鳥など様々なものについて観察が行われ、モリアオガエルの卵やり

(2ページに続く)

(1 ページから続く)



幹のなかを流れる水の音に
聴き入る子供たち

「ちくちくしたものの」、「いいにおい」、「手より大きい葉」といったカードに書かれた項目を発見してビンゴが揃う度に、子ども達の「ビンゴ!」の元気な声が森の中に響いていました。

午後のキノコ植菌体験では、ムキタケの種駒をナラの本木(ほだ木)に打ち込む作業が行われ、ドリルを使った穴空けや、金槌を使っての種駒の打ち込みなど、初めての体験に子供達が大きな歓声をあげるなか、子供達以上に夢中になって駒打ちを行っている保護者の姿も見受けられました。

植菌体験の後には閉校式が行われ、参加した子供達には、自分たちが植菌したほだ木がプレゼントされたほか、お土産としてシイタケの菌床が配られました。

以上のように参加された全ての皆さんが、自然とふれあい、緑に親しんで、その大切さについて学びながら、楽しい時間を過ごされた様子でした。なお、来年度は只見町での開催を予定しています。

(森林林業部)

「植樹祭」が開催されました!

去る6月13日、下郷町中山の町有林において、下郷町、下郷町緑化推進委員会、並びに南会津地方緑化推進委員会の主催による「第55回南会津地方植樹祭」が開催されました。

入梅後のため当日の天候が心配されましたが、幸い雨も降らず、植栽には絶好の天気にも恵まれたなか、緑の少年団を含む一般参加者と来賓を合



わせて約160名と多くの方々の参加がありました。

はじめに行われた式典では、下郷町長が開会の挨拶を述べた後、地域の緑化活動に功績のあった4名の方々が緑化功労者として表彰され、続いて、平成13年度から毎年南会津産木製玩具類の売上金の一部を南会津地方緑化推進委員会へ寄付している(株)高島

屋に対して感謝状の贈呈が行われました。

式典が終わると、いよいよ植樹活動です。今回は1ha程の斜面に、コブシ、トチノキ、ヤマザクラなど6種類、計200本の広葉樹の苗木を植えました。自ら鍬やスコップを手にしての植樹作業は、現地が石の多い場所であったこともあり、なかなか捗りませんでしたが、皆さん互いに協力し合いながら作業を進め、なんとか時間内に全ての苗木を植えることが出来ました。

この植樹祭には「緑の募金」による緑化事業のほか、県の「森林ボランティア県民活動推進事業」の交付金が充てられていますが、この事業は県民一人ひとりが森林づくりに参画することを目的としているものです。今回参加者一人ひとりの手によって植えられた苗木は、やがては大きく育って花を咲かせ、地域の美しい緑を創出してくれることでしょう。

なお、来年度は南会津町において開催される予定です。

(森林林業部)

「南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議」が開催されました!!

去る6月6日に、南会津地方のグリーン・ツーリズムを推進するため、関係機関・団体が相互に協力を図りながら、交流人口の増加を目指し、もって地域の活性化を目的とする南会津地方グリーン・ツーリズム推進会議を開催しました。

本会議は、平成7年度から南会津のグリーン・ツーリズムの啓発活動や、人材育成、PR活動を行っていましたが、今年度は南会津町の誕生や人



事異動等により、会長(JA会津みなみ星泰蔵代表理事専務)を初め約半数が新たな構成員となりました。

まず初めに、本推進会議及び各町村・団体の昨年度の活動実績の報告がありました。各組織とも開催方法や誘客等に創意・工夫しながら、活発に交流が行われているようでした。

次に、本推進会議の平成18年度の活動として、(1)グリーン・ツーリズムツアーの実施による取り組みの活性化、(2)都市・農村交流の担い手であるグリーン・ツーリズムインストラクターの確保・育成、(3)南会津地方のグリーン・ツーリズムの情報発信活動などが計画とされました。

本推進会議を契機として、ますます各町村や民間団体等の連携が密となり、南会津地方のグリーン・ツーリズムが発展することが望まれます。

(地域農林企画室)

「南会津地方遊休農地活用推進会議」 を開催!!

近年、輸入農産物の増加に伴う農産物価格の低迷、担い手の減少や高齢化等の進行により、遊休農地が拡大する傾向にあり、中山間に位置する南会津地域も例外なく急激に増加しています。



このため、遊休農地の有効利用と発生防止に向け、県関係出先機関、管内町、関係団体が一体となり取り組むことが緊急の課題であることから「南会津地方遊休農地活用推進会議」が、去る6月14日に県南会津合同庁舎で開催されました。

会議では各町より遊休農地の現状・解消に向けてのこれからの取り組み、計画している事業等の説明がな

されました。

その後意見交換では、“遊休農地の現状把握がまだ出来ていない・解消策を講じた農地が再び遊休化してしまう・遊休農地の活用方策が見いだせない”等様々な課題や、活動としては“町村農業委員会、認定農業者会等が中心となり農産物直売テント村設置や、一斉耕起の日を設定し農地の保全耕起や遊休農地にコスモス等景観作物を植え付け遊休化させない、荒らさない等の広報活動をした。”等の意見交換がなされました。

また、次回の会議開催時には「放牧による解消策・売れる山のもの(山からの葉もの、枝もの、山菜等)の栽培・法人化、集落営農育成による遊休農地活用・解消策」等の検討案を持ち寄る事となりました。

農業者にとって農地が遊休化してしまうのは本当につらいことです。遊休農地を発生させないためにも個々の農家で対応が難しい場合には、ぜひ「町農業委員会・南会津農林事務所」に相談してください。

(農業振興部)

この人を知りたい

大自然に囲まれて

(檜枝岐村 星勇さん)

今回紹介するのは、檜枝岐村で天然キノコの採集や原木キノコ栽培を行っている星勇さんです。

星さんは国道352号線を尾瀬御池口を越えて奥に進んだ新潟県境近くの砂子平で、山菜やキノコの料理を食べさせてくれるお店「山ん中」を夫婦で営みながら、まわりに広がる広葉樹の森の中で様々なキノコを栽培しています。砂子平で生まれ育ち、高校卒業後、いったんは東京に就職しましたが、山での生活が忘れられず27歳(83年)のときに家族と一緒に砂子平に帰ってきました(その当時は電気も電話もなかったそうです)。



一年のうち春から秋までを砂子平で過ごし、雪の降る頃になると里に下りてくるとい生活のサイクル。雪が積もると街への道が通行止めになって山から下りられなくなってしまったため、気象条件によって発生量や発生の時期が不安定なキノコの収穫は、毎年雪が降る前に終わるかと気を揉むことが多いとの

こと。収穫前に雪に埋もれてしまうこともあるそうです。星さんの栽培スタイルは出来るだけ自然そのままの環境を生かしたもの。同じ品種でも山のあちこちに分けて植菌し伏せ込みます。これは生育条件を変えることにより発生不良の危険を回避したり、発生時期をずらすための工夫です。森の中に点在するホダ木からキノコがはえてくる様子は、森の景色にとけ込み、あたかも天然のキノコのように見えます。天然物と栽培したキノコの多くは塩漬けにされ、星さんのキノコを心待ちにしている人たちのもとに郵送で届けられます。「山ん中」の店内には、これまで星さん自身が撮影した砂子平や尾瀬の風景、天然のキノコ等の写真が誰でも気軽に見ることができるよう置いてあります。季節の山菜やキノコ料理を食べながら写真を眺めてみることもおすすめです。

(森林林業部)



星勇さん・理英さん夫妻
(軽食喫茶「山ん中」の前にて)

こと。収穫前に雪に埋もれてしまうこともあるそうです。星さんの栽培スタイルは出来るだけ自然そのままの環境を生かしたもの。同じ品種でも山のあちこちに分けて植菌し伏せ込みます。これは生育条件を変えることにより発生不良の危険を回避したり、発生時期をずらすための工夫です。森の中に点在するホダ木からキノコがはえてくる様子は、森の景色にとけ込み、あたかも天然のキノコのように見えます。天然物と栽培したキノコの多くは塩漬けにされ、星さんのキノコを心待ちにしている人たちのもとに郵送で届けられます。「山ん中」の店内には、これまで星さん自身が撮影した砂子平や尾瀬の風景、天然のキノコ等の写真が誰でも気軽に見ることができるよう置いてあります。季節の山菜やキノコ料理を食べながら写真を眺めてみることもおすすめです。

南会津の名水の話

みずひき 水引の清水 (南会津町)

南会津町 館岩総合支所 振興課

南会津町の水引地区(旧館岩村)は茅葺きの曲り屋が残る風情のある集落で、スケッチや写真を撮る観光客の姿が見受けられます。また、山頂の湿原で知られる田代山(1,971m)の入り口にあたり豊富な水源に恵まれた地域です。



水引集落

集落内の側溝には山からの水が絶えず流れており、畑から採ってきた農作物の洗い場として、また

果物を冷やすなど暮らしの中で生きています。

地区の鎮守様の麓に湧き出ている清水は、清めの水として昔から住民の信仰を集めており、

さい銭を入れる小箱も置かれています。また、夏期でも冷たく、お茶の味がよくなるということで、ペットボトルにつめて持ち帰っている住民もいます。

名物料理となっている「栃餅」をつくる際には、原料の栃の実を清水に漬けてアクぬきをします(上写真)。こうした工程を経て作られた栃餅は、独特の風味をもった栃餅になります。

水道の普及でこうした水場は減ってしまいましたが、これからも住民が利用できる場として残ってほしいものです。



今月のコラム

♪世の中変わっているんだよ～

今から30年ほど前、ササニシキが主力だった頃コシヒカリがようやく福島県で作付けされはじめました。その時コシヒカリの本県での適地は標高300m以下とされていたと記憶しています(小文は全て筆者の記憶によるものため、間違いがあればご容赦ください)。ところが最近では当南会津郡内の標高600mを越える地区でも栽培されています。気象の温暖化、栽培技術の進歩、高価格の魅力! ?が理由でしょうか。

日本経済新聞の新年特集号に“現在の産業で100年後にも確実に存在するものは農業しかない、それ以外はどうなるかわからない”との趣旨の経済人の発言がありました。それほど先のことはわからないあるいは変化が激しいものと経済界は認識しているのでしょうか。今をときめくトヨタ自動車会長奥田碩氏は改革をしないリス



クは改革をするリスクより遙かに大きいと常々言っているそうです。トヨタ自動車が100年後に自動車をつくらなくなっている! ことが実際にあるかもしれません。

さて100年後も存在すると言われた農業ですが、内容は大きく変わっています。今から40年前の1965年(昭和40年)頃まで農作業はほとんど人力で機械力は小さな耕耘機と脱穀機程度でした。田植えはもちろんそうで、1日約5a植えれば1人前とされていました(なんと12時間労働で)。ですから自家労力だけでは1人1ha程度を経営するのが適正規模で、家族経営の規模を決定するのは労働力でした。現在は制限要素は経営土地面積となっていますが、これを解決する制度・手法の決め手がない状態で、この問題を解決できれば農業の飛躍的発展が可能になりそうな気がします。土地の所有と利用の分離などが集落の話し合いで解決できないか、土地に対する意識改革が重要でないでしょうか。

♪世の中変わっているんだよ～ 人の心も変わるのさ～。

(農業普及部長 五十嵐竹男)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想を
お寄せください。



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。